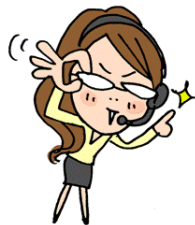


こよみ



2010年5月31日

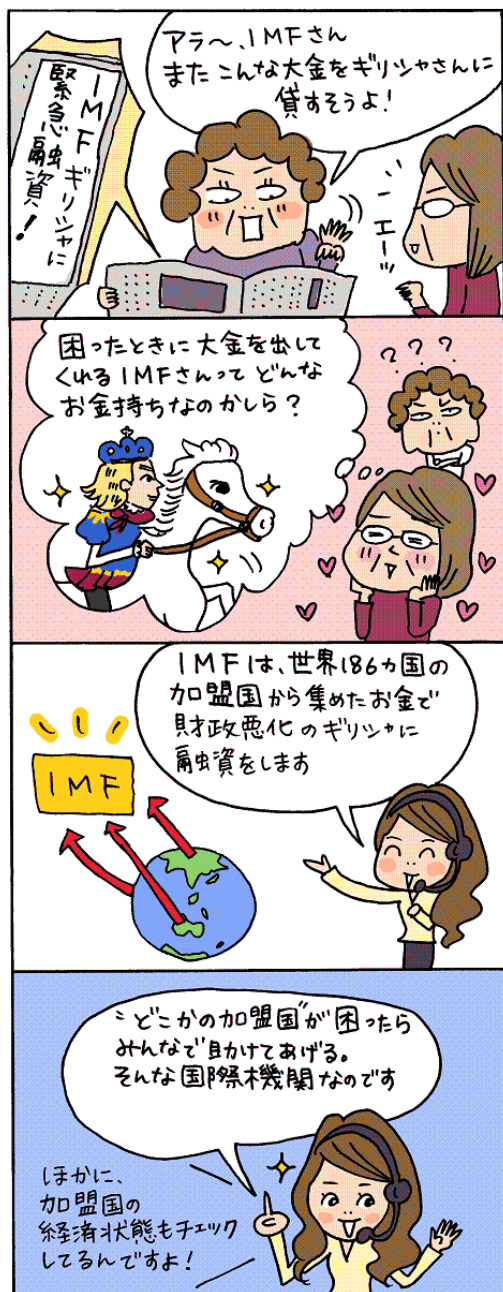
コールセンターからの小さなよみもの



Vol.17

IMF

世界を見守り、支援する—— それが、IMFの役割です。

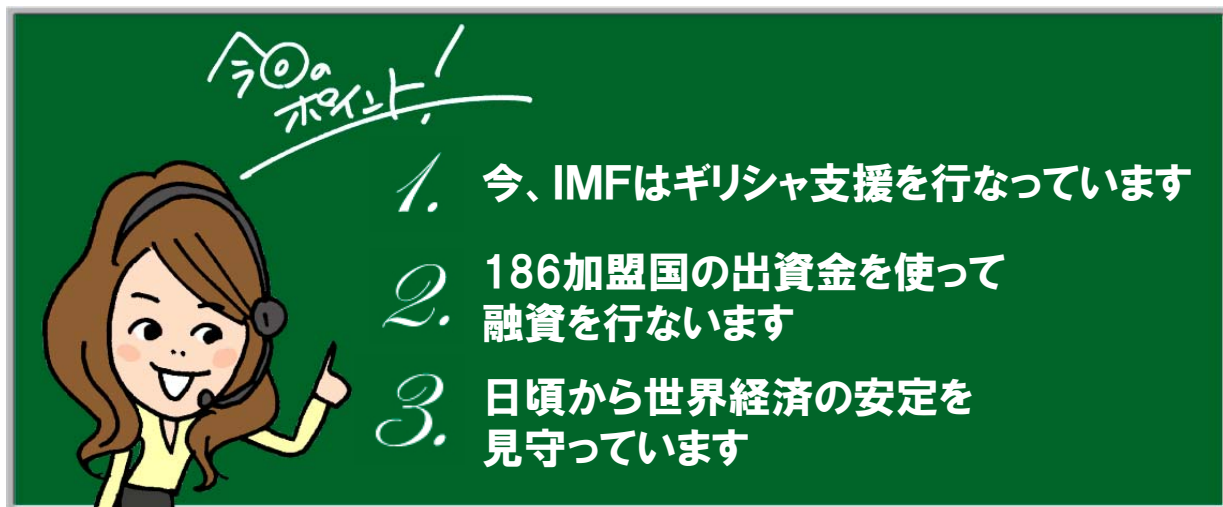


今、世界が動向を注視している欧州諸国の財政悪化問題の中でも、ギリシャに対する支援が大きな話題になっています。そのなかでたびたび登場するIMF(国際通貨基金)。IMFとはいったいどんな機関なのでしょう。そこで皆さまには次の3点を押えていただきたいと思います。

1. 今、IMFは
ギリシャ支援を行なっています
2. 186加盟国の出資金を使って
融資を行ないます
3. 日頃から世界経済の安定を
見守っています



コールセンターからの小さなよみもの



1. 今、IMFはギリシャ支援を行なっています

今、世界の株式市場などを大きく揺り動かしているのは、ギリシャの財政悪化をはじめとした欧州の信用不安です。

その震源地であるギリシャは、現在莫大な財政赤字を抱えています。ギリシャは、その赤字を減らし、収入と支出のバランスを建て直していこうと計画していますが、ギリシャ国債の満期による償還代金の支払いなどが間近に迫っており、投資家などからの不安や疑念が巻き起こっていました。そこで手助けに名乗りをあげたのが、EU(欧州連合)とIMF(国際通貨基金)です。第一弾として2010年5月18日に、EUとIMFが合計で約2.3兆円の支援を行ない、今後3年間の支援を約束しました。また今後のユーロ圏での財政不安への備えとして、約89兆円の枠組みが創設されています。

最近ではギリシャ支援で話題にのぼることが多いIMFですが、2008年11月のアイスランドへの支援も記憶に新しいところです。リーマン・ショックは、世界中の株式などに大きなダメージを与え、先進国のみならず新興国の景気も急速に落ち込ませました。このような環境下、IMFの出番が増えています。



コールセンターからの小さなよみもの

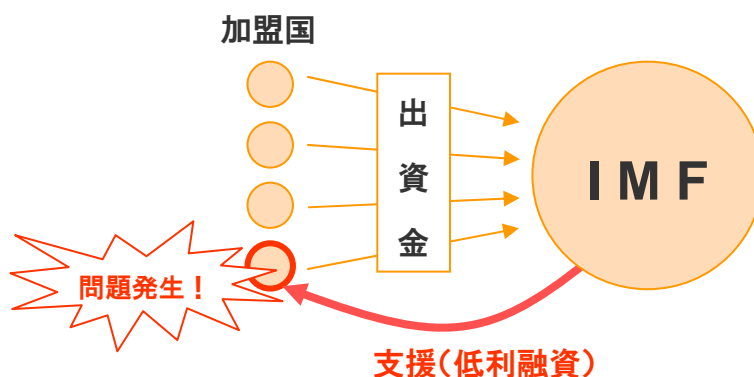
2. 186加盟国の出資金を使って 融資を行ないます

なぜ、IMFは不安を抱える国の求めに応じて、すぐにお金を投入することができるのでしょうか。また、どこからそのお金は出てきているのでしょうか。

IMFは国連のなかの独立した専門機関として、1946年に活動を開始しました。現在、世界のほとんどの国ともいえる186カ国が加盟しており、IMFがギリシャ支援などに使うお金は、加盟国の出資金から充てられています。つまり、加盟国は出資金を負担しているからこそ、いざという時にIMFから支援が受けられるのです。

IMFは各国からの出資金を元手に、状況に合わせた金額を低利で融資することによって支援を行ないます。ギリシャの場合も、5月の国債の満期償還に充てる資金がないのではないかと心配されていましたが、EUとIMFの支援のおかげでそれを乗り切ることができたのです。

加えて、支援している間、IMFはその国の財政の改善計画などを注視していくことになるため、市場(投資家)にも安心感を与えます。



最近“出番”の多いIMFですが、資金が足りなくなることをないよう先進国を中心に、出資金とは別に資金が追加される体制があります。今回の金融危機では、追加枠を今までの2倍にまで拡げて融資ができるような体制が、すでに2009年4月のG20・ロンドンサミットで決定しています。



コールセンターからの小さなよみもの

3. 日頃から世界経済の安定を見守っています

IMFは前述のような支援だけでなく、常日頃から世界経済の安定成長のために調査とそれに基づいた活動を行なっています。とくに定期的(4、10月)に発表される「世界経済見通し」は世界各国の成長率見通しなどがまとめられており、私たちも注目している情報です。

近年はグローバル化が進み、個々の国の問題がその国にとどまらず、世界に波及することが多くあります。そうした中、IMFは重要な役割として、定期的に加盟国の経済状態をチェックし、その調査結果をもとに加盟国に対する助言も行なっています。つい先日(5月19日)日本もIMFから「財政再建を始めるべき」との指摘されました。

つまり、世界経済の安定成長を常に見守り、資金の融資を中心として問題解決のサポートを行なう国際機関がIMFだといえます。

最近のIMFの活動からは、「何としても世界経済の回復と安定成長を実現する!」という強い意志が感じられる気がします。今後、ギリシャの後にも色々な出来事が世界経済を揺さぶるかもしれません。しかしIMFも含めた世界規模での取り組みによって、時間はかかってもきっとそれらは解決され、回復と安定成長への流れに戻る事が期待できるのではないのでしょうか。

もちろん日々のニュースも気になりますが、こうした少しゆったりとした大きな視点からも、世界経済と投資環境について考えてみたいものです。

nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

